

神奈川県の学童保育

「従うべき基準」を守る取り組み

—安全に安心して過ごすことのできる「毎日の生活の場」を守るために—

せっかく定められた学童保育の指導員の資格と複数配置について、省令と児童福祉法で「従うべき基準」として規定されたものが、参酌基準に変更されるという動きがあります。この事態に対応して、私たちは全国連協と共に指導員の資格と複数配置を守るに必要な予算措置を求める請願書名に取り組んでいます。前回、従うべき基準として堅持するよう求める署名に取り組みました。全国で20万人、県内からは1万人近い署名を国に送りましたが、国会の慌ただしい展開の中で、審議にさえかかりませんでした。こんどはその10倍、10万筆を神奈川で集めようと取り組んでいるところです。横浜を始め横須賀、平塚など力のある連絡協議会はもとより、県内隅々まで学童保育の充実を願う人々の声を拾い集めて国会に送りたいと考えています。参酌基準になったからといって、少なくとも学童保育では専門職として資格のある指導員が複数いないと子どもたちの安全は守れないのだということを国が姿勢として持ち続けるよう、100万署名を確実にやり遂げて行きましょう。

国が指導員の資格と複数配置を従うべき基準から参酌基準に扱いを変えたからといって、基準そのものが変わったわけではありません。自治体の裁量で参酌できるとなっただけで、従うべき基準だった時に市町村が作った今ある条例を変えなければ学童保育の生活づくりに影響はありません。各地域で、学童保育には資格を持った指導員が複数配置されることが、子ども放課後の安全と生活にとって欠かすことができないのだということを行行政に訴え、粘り強く働きかけて行き、今の条例を変えないようにすることが大切です。

— 全国各地の取り組みから —

学童保育では専門職の資格を持った指導員が常時複数配置されることが、子どもたちの安全と豊かな生活づくりにとって欠かせないことは先程述べたところですが、以下のように全国各地でも全国連協の請願書名を始めとした取り組みが広がっています。これらの取り組みは厚生労働省を励まし、必要だから定めたのだという従来の姿勢を持ち続けさせるために大きな力となります。神奈川でも、県議会に国への意見書提出を求める請願を出すべく、神奈川県学童保育を支える議員連盟の協力を得ながら2月議会での採択を目指し進めているところです。

- ◆ 北海道：「放課後児童クラブの質の確保を求める意見書」が道議会で採択。
- ◆ 岩手県：県議会で「放課後児童クラブの職員配置基準等の堅持を求める意見書」を採択。
- ◆ 栃木県：県議会で「放課後児童クラブの質の確保を求める意見書」を採択。
- ◆ 埼玉県：県議会で「放課後児童クラブの職員配置基準等の堅持及び放課後児童支援員等の処遇改善を求める意見書」が採択。
- ◆ 滋賀県：県議会で「放課後児童クラブの質の確保を求める意見書」を採択。
- ◆ 大阪府：天王寺区で基準の緩和に反対する「子どもの命を考える集会」が、約350人の参加で開催され、NHK関西のニュースで報道される。

これらは、ほんの一部です。数多くの取り組みが全国各地で沸き起こっています。

第42回神奈川県学童保育研究集会（かな研）



第42回かな研は、全体会のみで開催となります。

記念講演には「日本の学童ほいく」2016年4月号～9月号で講座をご担当いただいた福井先生をお迎えします。ぜひご参加下さい！

日 程…2019年2月24日（日）13時30分～16時00分（受付開始13:00）
会 場…横浜市神奈川公会堂（JR 東神奈川駅／京急 仲木戸駅 徒歩4分）

記念講演…「子どもの育ちと学童保育—生活をつくる安心の居場所」

講師 福井 雅英 氏（滋賀県立大学教授）

滋賀県生まれ。滋賀県の公立小中学校の教諭として31年間勤務。
武庫川女子大学、北海道教育大学教職大学院、北海道文教大学を経て
平成26年から滋賀県立大学特任教授として現在に至る。
専門は日本教育史、臨床教育学。

- 当日申込も可能ですが、準備の都合上なるべく事前にお申し込みください。
- 2月15日（金）以降のキャンセルについては返金できません。
- 神奈川公会堂には駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。
- 保育は4歳以上。必ず事前にお申し込みください。（保育申込締め切り2月15日（金））



県連協新春会長会を開催

去る1月6日（日）の午後、「2019年新春会長会」を開催しました。初めに小神県連協会長より「指導員の資格と複数配置について基準の参酌化が閣議決定され、児童福祉法が改訂されることとなります。全国連協ではそれをとどめるために100万人署名に取り組んでいます。県連協も共に取り組んでいきますので、協力をお願いします。さて、10月に開催した第53回全国学童保育研究集会 in 神奈川（以下、全国研）には、県内からも多くの参加があり、県連協としての大きな財産を得ることができました。今日は全国研を振り返りながら、全国研の取り組み等で得られたことや地域の課題等共有しましょう」と挨拶がありました。

全国研には、各地域とも初めての参加者が多く、「規模の大きさに驚いた」「特別報告に感動した」「分科会に参加し勉強になった」「増山先生の話聞き遊びの大切さがわかった」、「学童保育は『人間が育つ大事な場』なのだと思った」との感想が出されたなど報告がありました。子どもたちによる歓迎行事は多くの方の感動を呼びましたが、報告を聴く中で、開催した年に学童保育に在籍している子どもの特権であると感じました。

そして、参加した保護者、指導員の感動を基に広げていくことが大切であり、どう広げていくかが課題であることを共有しました。

また、規制の緩和に伴う、職員の配置基準等を「従うべき基準」から「参酌すべき基準」にするという国の動きに対して、子どもの安心・安全をどうすれば守れるかなどについて情報交流をしました。「保護者には学童保育の中の様子がわからない。保育（育成支援）の質をどう考えればよいのか」という発言があり、それから発展し、「学童保育の質」について活発な意見交流がなされ、たいへん充実した時間となりました。

「日本の学童ほいく」普及推進会議

「2019年新春会長会」同日午前中に、『日本の学童ほいく』普及推進会議を開催しました。

1974年に創刊された「日本の学童ほいく」誌（全国連協発行）は、◎働きながらの子育てに役立つ雑誌◎指導員の実践（生活づくり）に役立つ雑誌◎保護者と指導員の共感をつくるのに役立つ雑誌◎読者である保護者・指導員が自らつくっている雑誌◎学童保育をよくする活動をすすめるのに役立つ雑誌◎全国連協の機関誌で、日本で唯一の学童保育の専門雑誌です。

学童保育に子どもを通わせる保護者と、学童保育で働く指導員が書き手となっていますが、2018年にも神奈川県内から多くの方に執筆していただきました。その中から、2人の方に原稿に込められた思い等を伺いました。4月号に執筆して下さった横浜市保護者の石倉さんからは、「新学期を迎える保護者の不安や指導員の子どもへの関わりを」、また9月号の三浦市指導員の伊集さんからは「子どもの様子を保護者と共有することで保護者の思いに寄り添い、共に子育てをしたい」などの思いを伺うことができました。

また、参加した各地域からは、指導員会で研修に活用している様子や、保護者会で読み合わせをして子どもの話、子育ての話を探るのに役立っているなどが出されました。他にも「読み合わせなどで他の人の読んだ感想等を聴くと、自分に感じきれなかったこともあり、新たな発見がある。」

「(学童保育紹介の)グラビアに載せてもらったが、子どもの自然な表情を捉えてくれ、とても良かった。」という意見もありました。

皆さんのクラブでも読み合わせをしてみませんか？



私のおすすめ『日本の学童ほいく』

毎月の運営委員会で、「私のおすすめ『日本の学童ほいく』」を地域持ち回りでご紹介いただいています。12月は逗子の小関さんからのおすすめです。

2018年12月号講座「子ども支援のための『健全育成』を再考する」P.46より

以前から『健全育成』という言葉に疑問を持っていましたが、「四 子ども支援のための『健全育成』の部分」がとても大切だと思いました。また、「三 子ども期に「公的」資金を使うことで同じお金を投資しても子ども期の方が、効果が大きいというのは、面白いですね。」とのことでした。

また、2019年1月は大和市指導員の大矢さんからおすそめをいただきました。

2019年1月号 「子どもにとって、「あたたかな帰る場所」であるように」P.19より。

「子どもが帰りたと思える場所をどう作っていくかを日々模索しています。どこも同じだと感じたので、おすすめしたい」とのこと。子どもにとって安心できて、帰りたと思える場所になるよう、日々奮闘している指導員のおかげで、保護者は安心して仕事ができるのだと、(保護者OB)として改めて感謝の気持ちを抱きました。

ぜひ、皆さんも保護者会などで話題にしてみてください。

小関さん、大矢さんありがとうございました。

2019年1月号～2月号に掲載されている神奈川からの投稿

<2019年1月号> 特集 「学んで知ろう！子どもの権利」

★ 子どものひろば 横浜市 はなちゃん(1年生)

<2019年2月号> 特集 「第53回全国学童保育研究集会 in 神奈川」

☆グラビア他「第53回全国研 in 神奈川」の写真、感想などが盛りだくさんです！

★ 子どものひろば 横須賀市 衣久江さん(4年生)・茅ヶ崎市 七虹ちゃん(1年生)

☆読者のひろば 平塚市指導員 竹内徹さん

12月1日(土)～2日(日) 全国運営委員会
 12月11日(火) 厚労省との懇談
 1月6日(日) 「日本の学童ほいく」普及推進会議
 // 2019年新春会長会議

1月20日(日) 全国ブロック会議
 1月25日(土)～26日(日) 第53回指導員交流会
 他 第1月曜日 定例役員会
 第1木曜日 定例運営委員会を実施

♪ 地域連協だより ♪

秦野市連協だより

昨年(2018年)の11月に秦野市連絡協議会の総会をおこないました。

まず最初に助成金の支払い月に対する要望を話し合いました。秦野市は現在新年度が始まり7月、9月、11月、1月、3月、5月と計7回に分けられ振り込んでいただいています。

秦野市の民間学童の歴史はまだ浅く、1番長い学童保育でんでんが8年目を迎え、助成金をいただき始めてから6年目になります。年々話し合いを続け、最初は年に4回だった助成金の支給月も7回に増え運営がしやすい環境づくりをしていただいています。

もう一つ今回の議題であがったのは運営費の繰越ができないことです。他の市を参考にさせていただいたところ、翌年度への積立金が出る市が多かったため、今後、秦野市でもやっていただけるように日々相談していきたく思います。

次に現在秦野市連絡協議会に所属する民間学童のうち4学童では文化会館を借りショーや発表会をしています。学童保育オハナ、学童保育えがおは3月10日に本格的なショーを行います。一般の人達も入場料を払い閲覧できる大掛かりのショーで子供達も日々張り切って練習をしているそうです。

学童保育はだのキッズと学童保育でんでんは合同で長期休みごとに特技発表会という名で開催していて、閲覧できるのは親族までにしてはいますが、司会から発表まで大人が一度もステージに上がることがなく進行していきます。

ダンスや合奏、応援団を発表し、経験した子供達は小学校でも楽器や伴奏など経験を活かして立候補して活躍している姿が見受けられます。

最後になりますが先日子供を引率中に喫煙をしている支援員がいたと市民からクレームが入りました。各学童保育で仕事中の姿を子供達が見ていると再認識する話し合いを行いました。

次号の「地域連協だより」は横浜市連協が担当です。

お楽しみに！



神奈川県学童保育連絡協議会HP
[\(http://kanaken.onushi.com/\)](http://kanaken.onushi.com/)



<これからの主な予定>

- 2月23日(土) 全国連協シンポジウム「明日の学童保育を考える」(東京都文京区民センター)
- 2月24日(日) 第41回神奈川県学童保育研究集会 (横浜市神奈川公会堂)
- 4月13日(土)～14日(日) 全国運営委員会・学習会(東京)
- 5月11日(土)～12日(日) 全国合宿研究会(京都府)
- 6月2日(日) 第44回全国指導員学校・南関東会場(神奈川県立保健福祉大学)
- 6月30日(日) 第44回神奈川県学童保育連絡協議会定期総会(横浜市従会館)
- 10月19日(土)～20日(日) 第54回全国学童保育研究集会 in 京都

*その他、運営委員会は毎月第1木曜日、役員会は運営委員会のある週の月曜日に開催しています。